

# 野村インベストメント・フォーラム2007

2007年12月5日

株式会社 野村総合研究所

代表取締役社長

藤沼 彰久



2010年、  
日本の未来を提案します。

# 目次

---

## 1. NRIの事業と位置付け

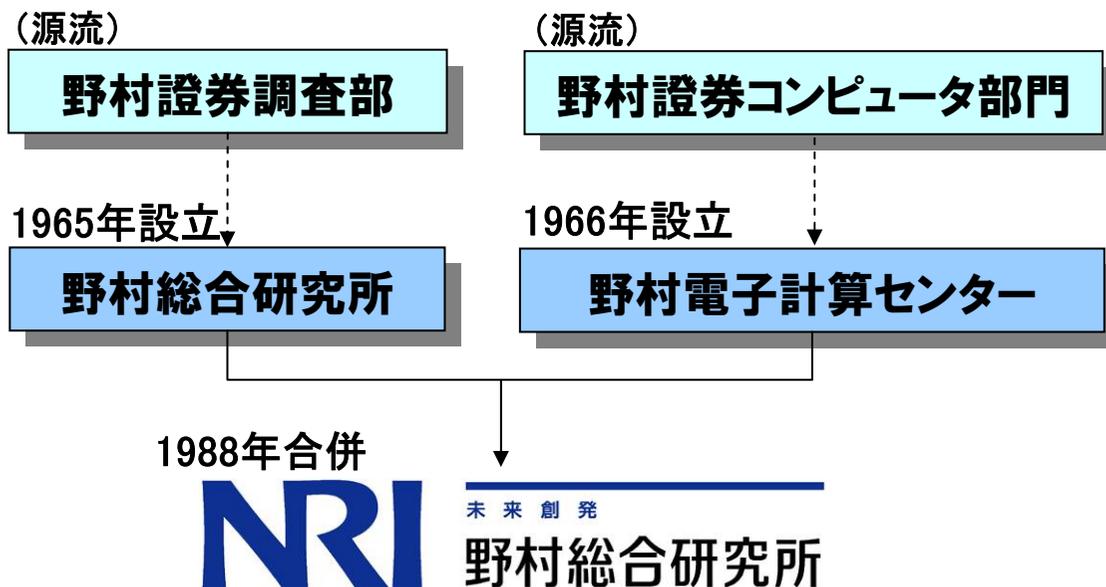
## 2. 連結業績の推移

## 3. NRIの強み

## 4. 中長期の成長に向けて

## 5. 参考資料

# 会社情報



2007年9月30日時点

## 株式会社 野村総合研究所

本社所在地 : 東京都千代田区  
資本金 : 186億円  
代表者 : 取締役社長 藤沼彰久  
従業員数 : 5,653名(連結)

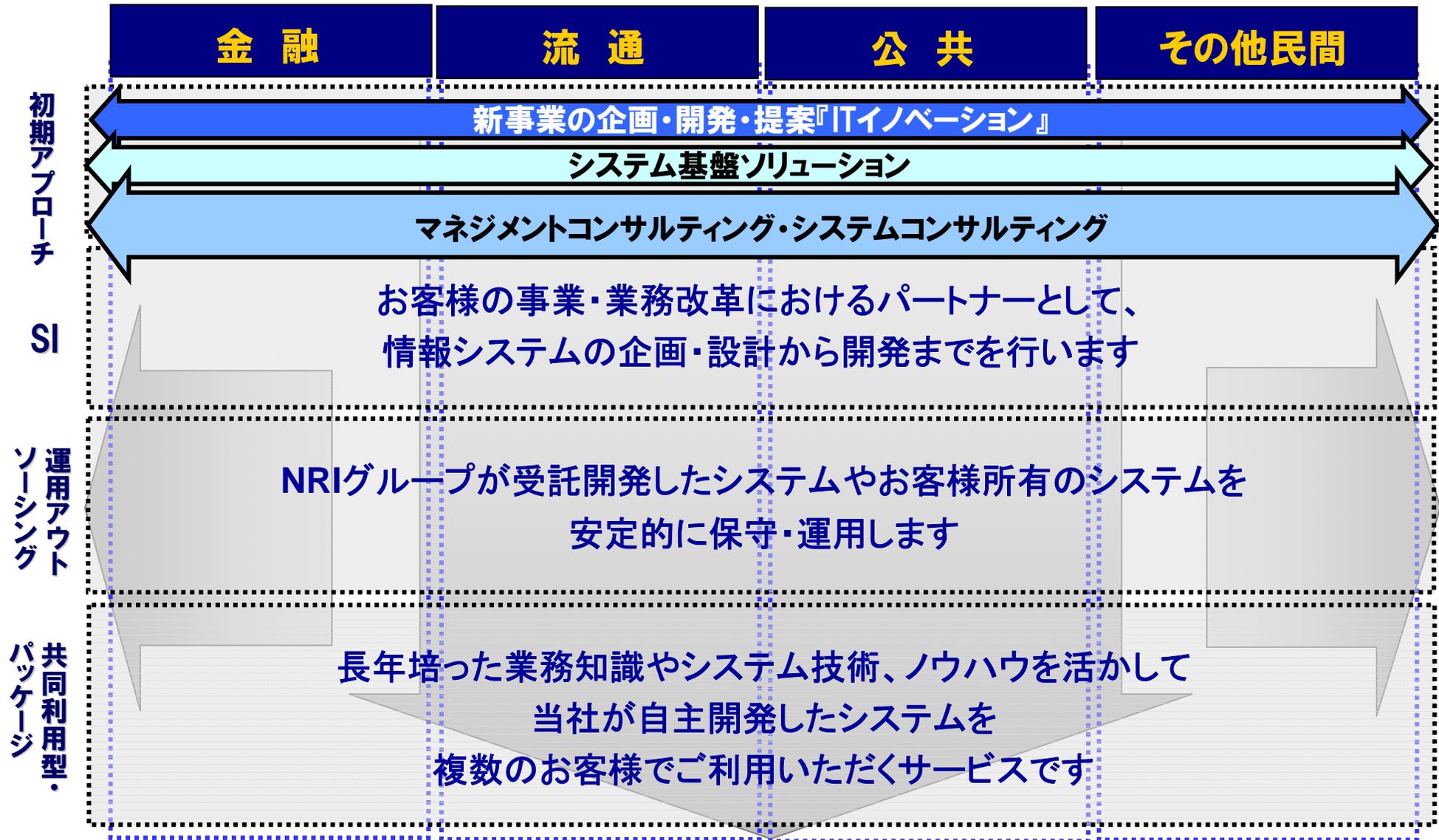
(2007年3月期業績)

連結売上高 : 3,225億円  
連結営業利益 : 438億円

### 沿革

- |            |   |
|------------|---|
| 1965年(4月)  | 株式会社野村総合研究所を設立  |
| 1966年(1月)  | 株式会社野村電子計算センターを設立<br>(1972年12月に野村コンピュータシステム株式会社に社名変更) |
| 1988年(1月)  | 野村総合研究所と野村コンピュータシステムが合併し、野村総合研究所となる                   |
| 2001年(12月) | 東京証券取引所市場第一部に上場 (証券コード: 4307)                         |

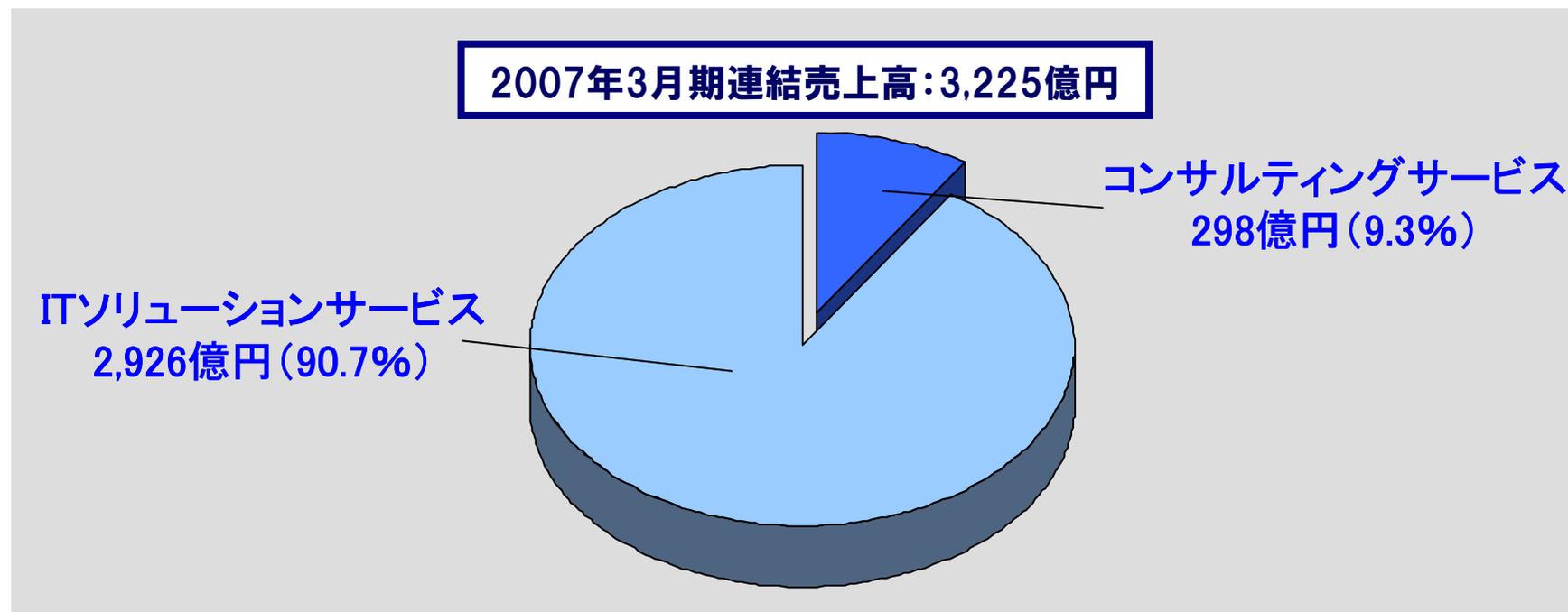
# NRIの事業：事業マトリックス



# NRIの事業:セグメント別売上高

## ■ コンサルティングサービス

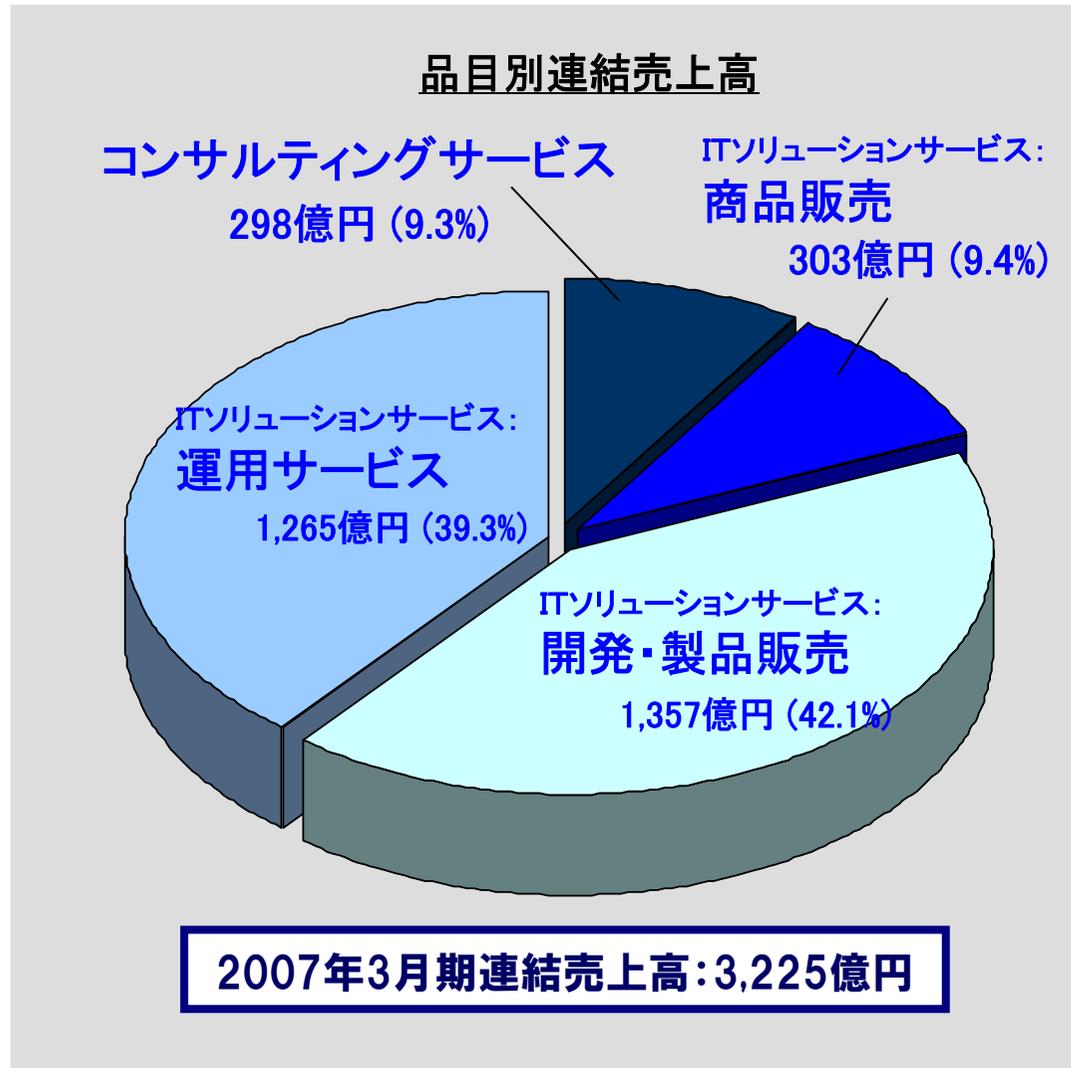
- マネジメントコンサルティング
- システムコンサルティング



## ■ ITソリューションサービス

- SI(システムインテグレーション)サービス : 情報システムの企画・設計から、開発・運用処理
- アウトソーシングサービス : システムの保守・運用管理
- 共同利用型システムサービス : 複数のお客様が共同でシステムを利用するサービス

# NRIの事業：品目別売上高



## コンサルティングサービス

### ■ コンサルティング

- マネジメントコンサルティング
- システムコンサルティング

## ITソリューションサービス

### ■ 開発・製品販売

- システムインテグレーション(受託開発)
- 当社開発ソフトウェアパッケージの販売

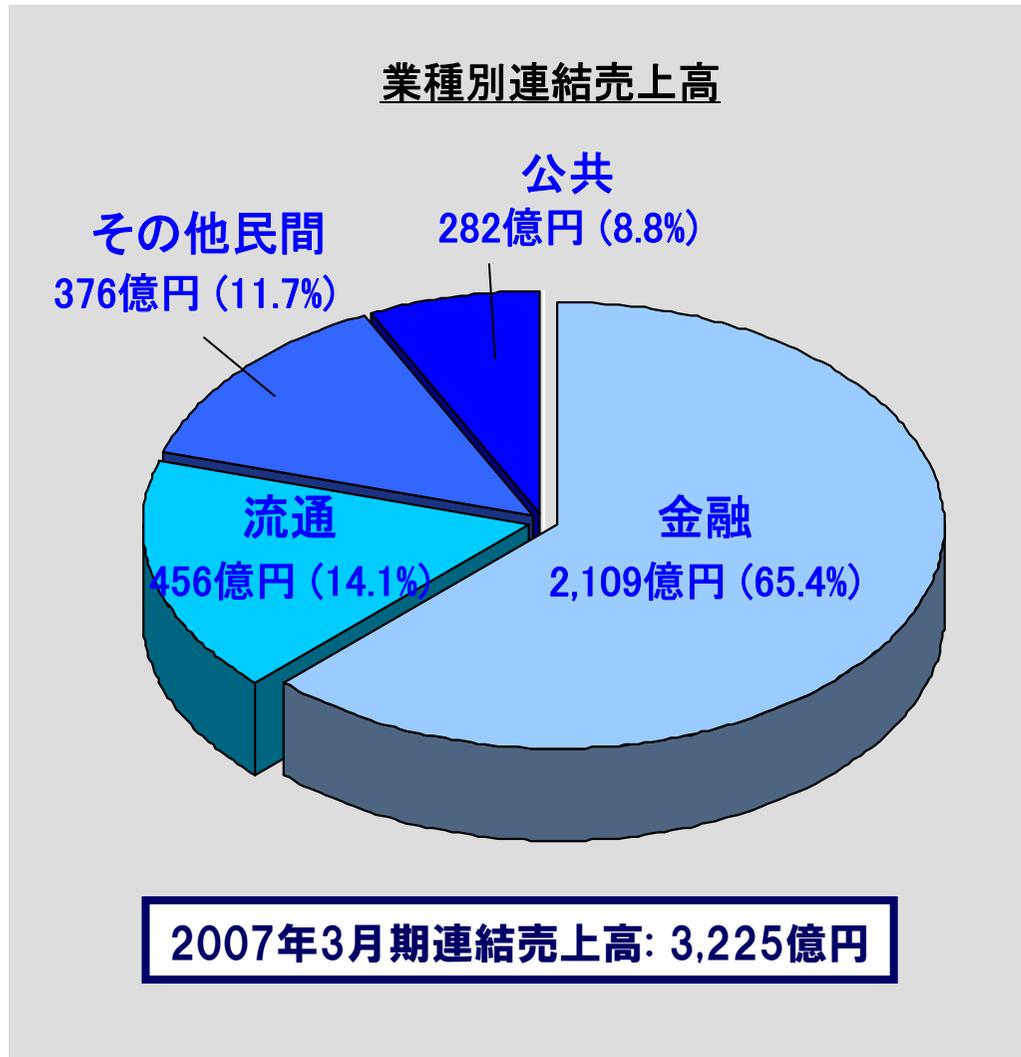
### ■ 運用サービス

- アウトソーシングサービス
- 共同利用型システムサービス(利用料)

### ■ 商品販売

- 外部から仕入れたハードウェアやソフトウェアの販売

# NRIの事業:業種別売上高



## ➤ 金融

証券、保険、銀行、信託銀行、投資信託委託、投資顧問、消費者金融 等

## ➤ 流通

スーパーマーケット、コンビニエンスストア、専門量販店、卸売 等

## ➤ その他民間

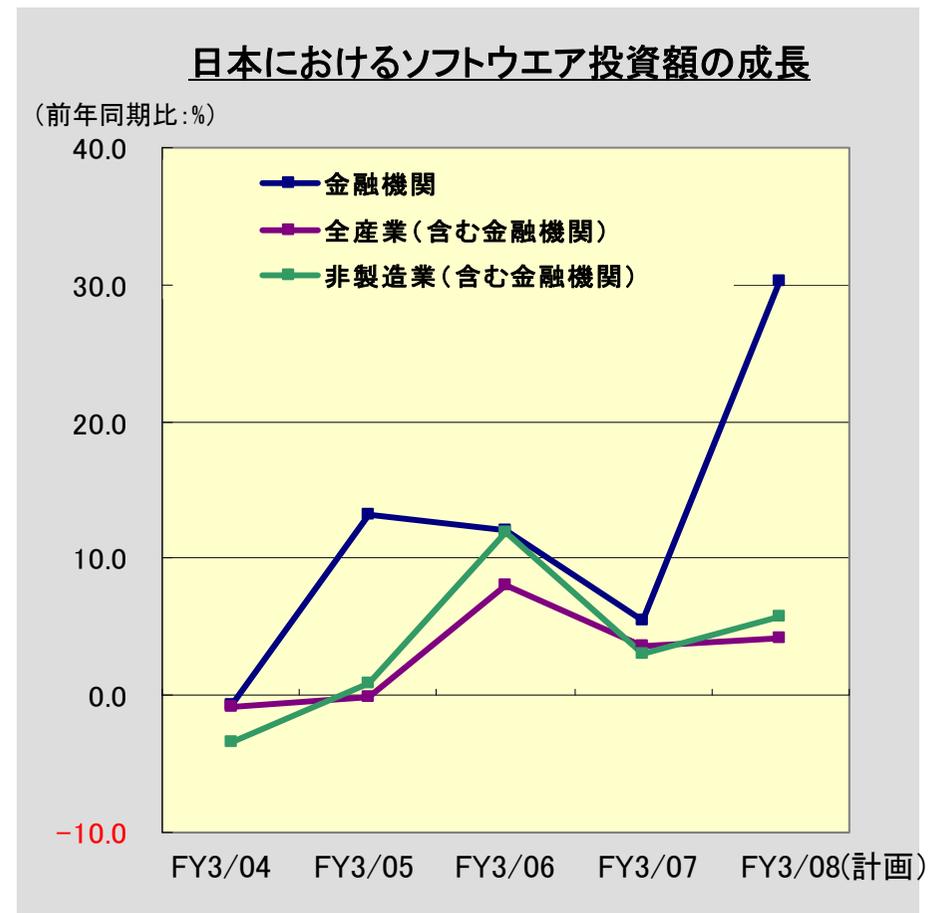
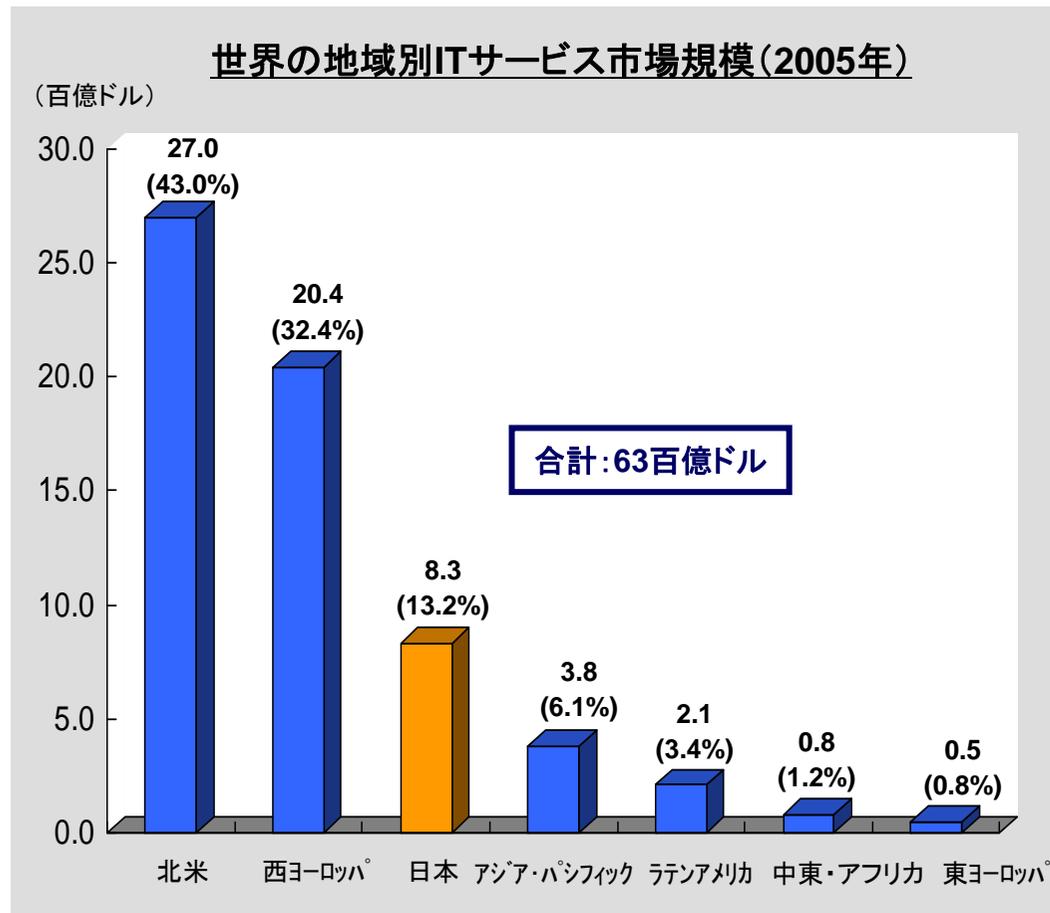
製造業、サービス業 等

## ➤ 公共

中央官庁、地方自治体、日本郵政公社 等

# 情報サービス業界環境：マーケットの規模

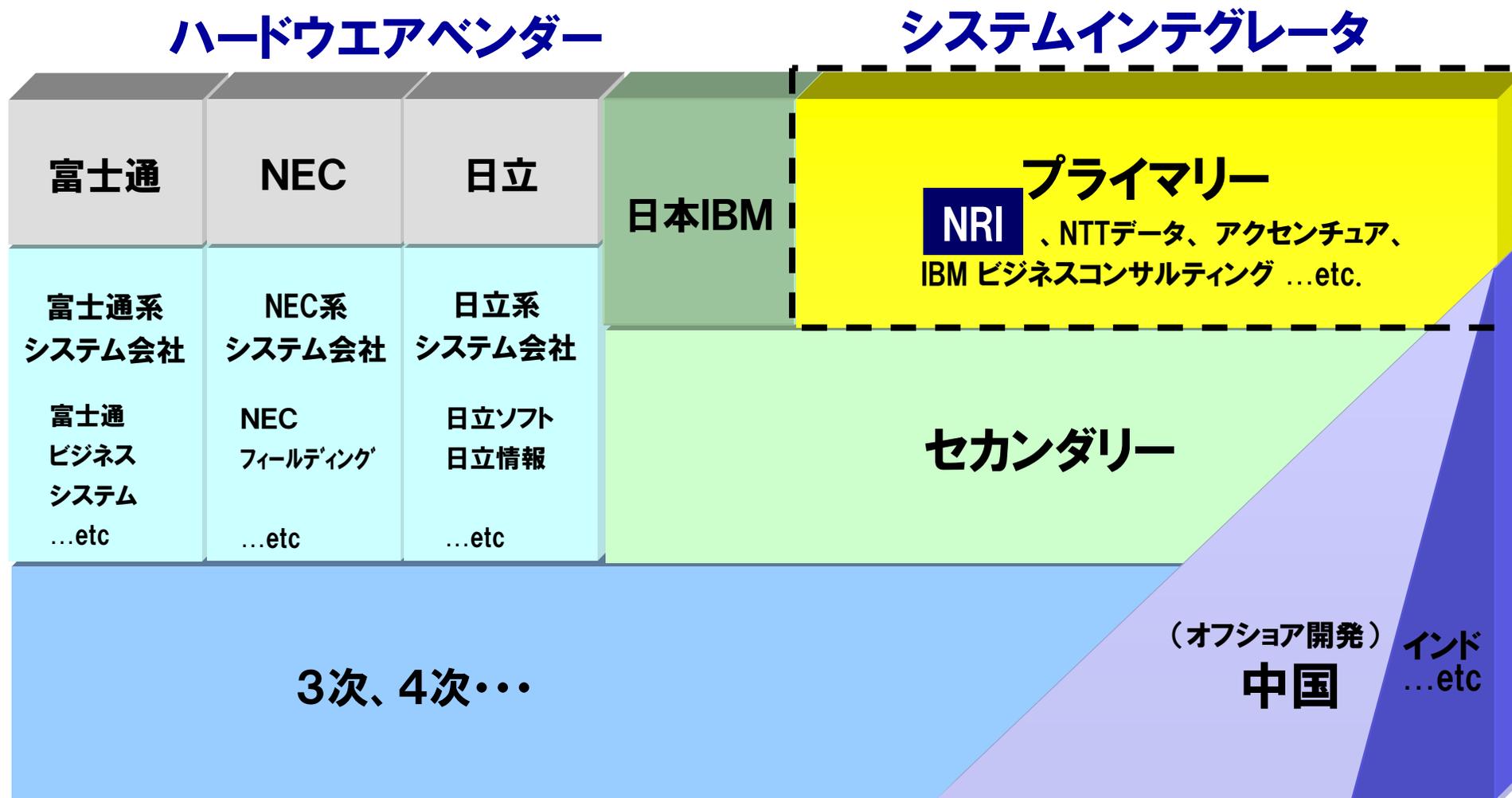
- 日本の情報サービス産業マーケット規模は、830億ドル(世界第3位)で世界シェアは13.2%
- 日本企業のソフトウェア投資額は、金融機関を中心に拡大中



出所)ガートナー データクエスト(2006年9月) GJ07011。( )内は、全体に占める割合

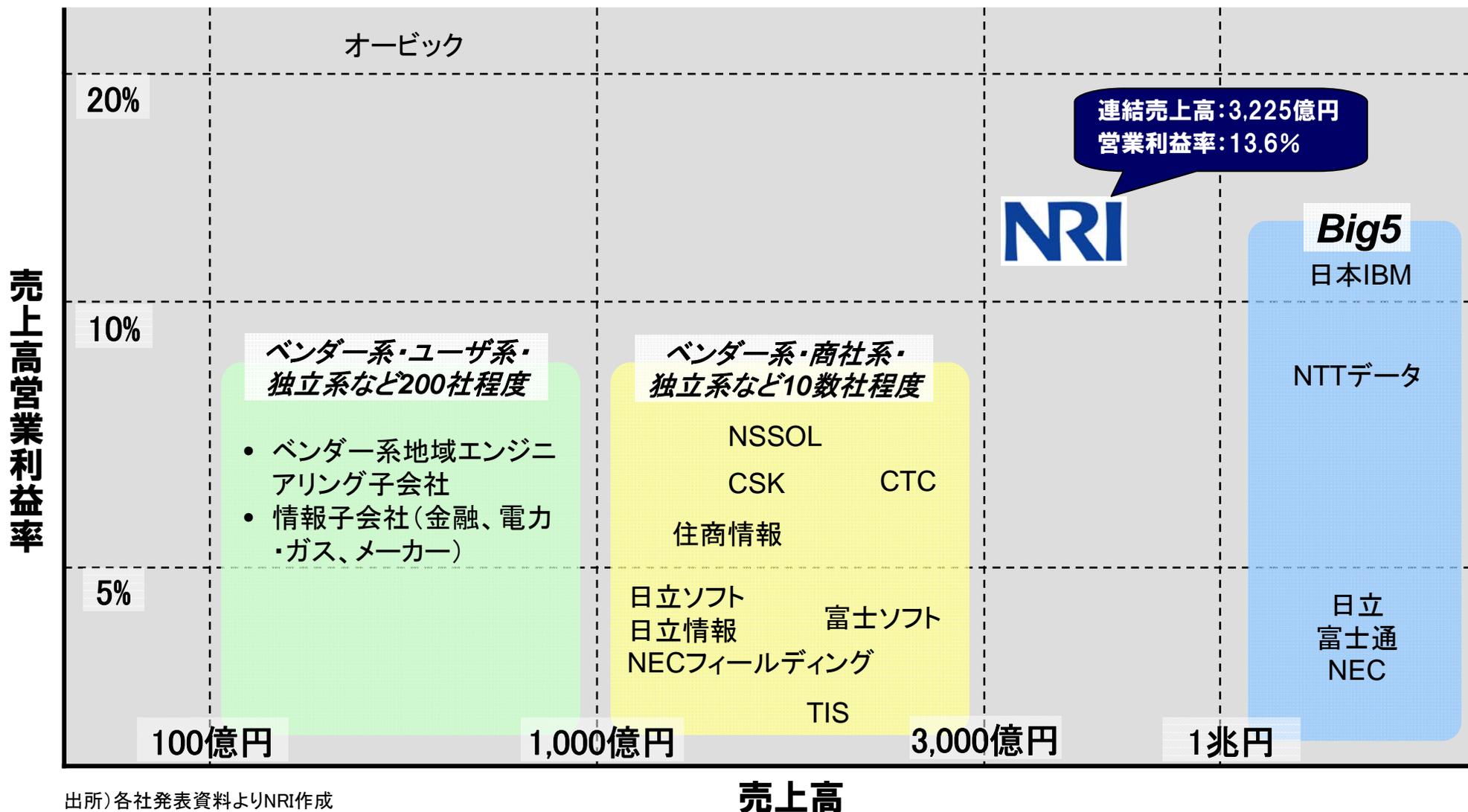
出所)日銀短観(2007年10月1日発表)

# 情報サービス業界環境:ITセクターの構造(国内)



# 情報サービス業界環境：同業他社との比較

売上高と営業利益率比較(2007年3月期)



出所)各社発表資料よりNRI作成

この資料は、投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。  
Copyright(C) 2007 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

---

**1. NRIの事業と位置付け**

**2. 連結業績の推移**

**3. NRIの強み**

**4. 中長期の成長に向けて**

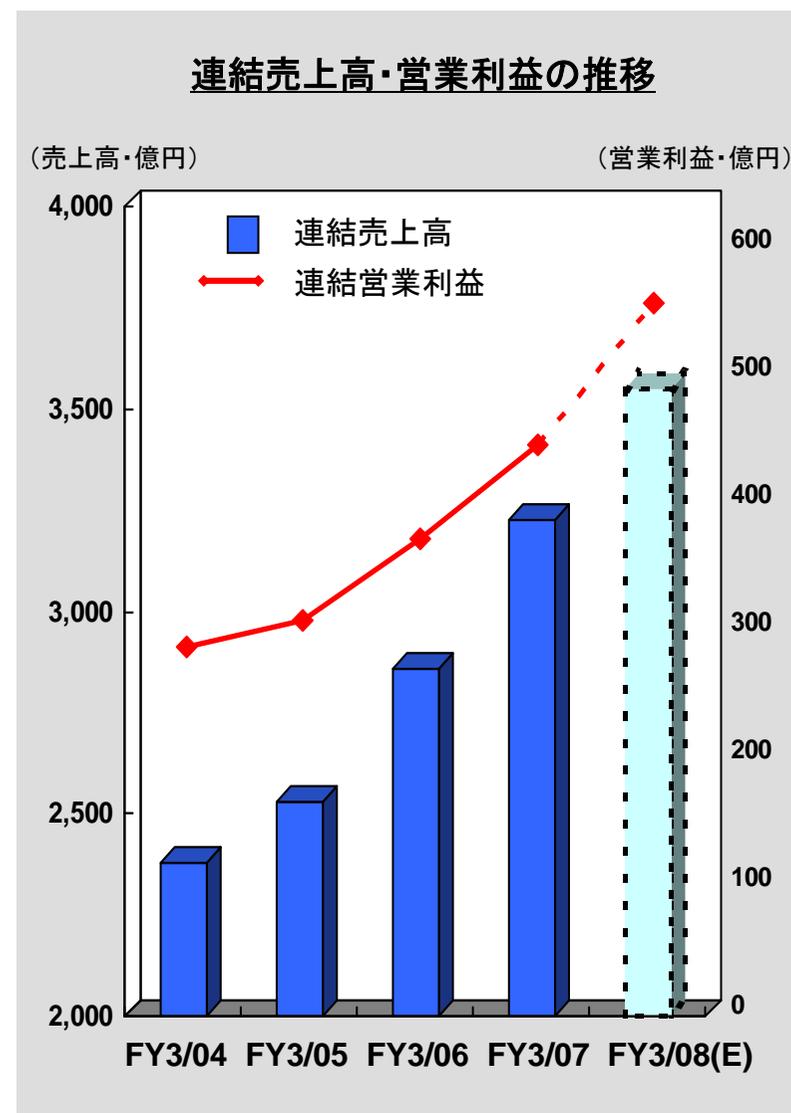
**5. 参考資料**

# 連結業績ハイライト(FY3/04-FY3/08E)

(百万円)	FY3/04	FY3/05	FY3/06	FY3/07	FY3/08(E) <sup>注1</sup>
売上高	238,067	252,963	285,585	<b>322,531</b>	355,000
営業利益	28,022	30,159	36,469	<b>43,897</b>	55,000
経常利益	27,627	29,293	30,987	<b>38,252</b>	58,000
当期純利益	18,269	16,303	22,518	<b>27,019</b>	35,000
1株当たり <sup>注2</sup> 当期純利益(円)	79	72	103	<b>132</b>	171
1株当たり <sup>注2</sup> 配当金(円)	8	20	28	<b>36</b>	48
総資産額	326,799	317,341	311,786	<b>371,458</b>	-
純資産額	229,331	231,766	209,301	<b>216,232</b>	-
(%)					
営業利益率	11.8	11.9	12.8	<b>13.6</b>	15.5
ROE	8.8	7.1	10.2	<b>12.7</b>	-
ROA	10.0	9.6	12.2	<b>13.5</b>	-
自己資本比率	70.2	73.0	67.1	<b>58.2</b>	-
(人)					
期末従業員数	4,791	4,848	5,013	<b>5,303</b>	-

注1) 2008年3月期業績予想は、2007年10月25日発表

注2) 2007年4月1日付で株式分割(1:5)を実施。過去分は遡及した値。



## 2008年3月期 中間決算ハイライト

(百万円)

	2007年3月期 中間	2008年3月期 中間	増減額	増減率
売上高	146,452	165,145	+18,693	+12.8%
営業利益	20,840	27,414	+6,574	+31.5%
営業利益率	14.2%	16.6%	+2.4P	
経常利益	22,495	29,342	+6,847	+30.4%
中間純利益	13,486	18,337	+4,850	+36.0%
1株当たり中間純利益	¥66.39	¥90.05	+¥23.66	+35.6%
1株当たり中間配当金	¥14	¥24	+¥10	

(注)2007年3月期の1株当たり情報は、株式分割(1:5)による影響を遡及した値。

---

**1. NRIの事業と位置付け**

**2. 連結業績の推移**

**3. NRIの強み**

**4. 中長期の成長に向けて**

**5. 参考資料**

# NRIの強み

---

## ①ナビゲーション&ソリューション

- 顧客の問題発見から問題解決まで、一貫したサービスの提供
- 先行するコンサルティング×システム

## ②安定した顧客基盤 – 優良顧客とのパートナーシップ

- 野村ホールディングス、セブン&アイホールディングス等との長年に渡るパートナーシップ
- システムノウハウや業務知識の蓄積とその活用

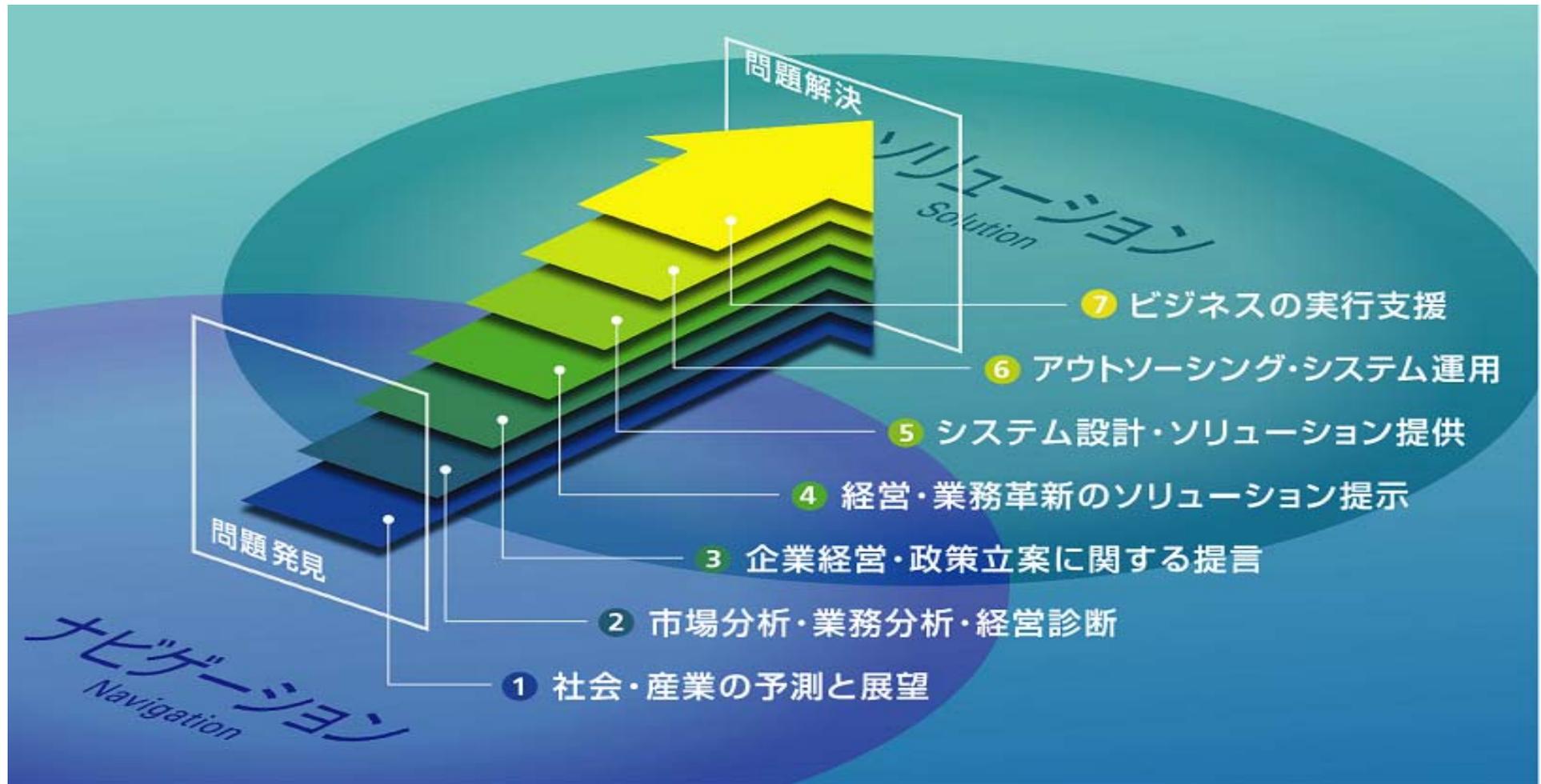
## ③資産活用型ビジネスモデル

- 共同利用型システムサービスによる、「業界インフラ」の提供
- 最新鋭データセンターへの投資

## ④層の厚い『人材』

- 多様な社員 + 国内・中国協力パートナーの活用
- 中国オフショア開発の拡大

# NRIの強み①：ナビゲーション&ソリューション



## NRIの強み②：安定した顧客基盤 - 優良顧客とのパートナーシップ

各社における最近の取り組み

野村ホールディングス



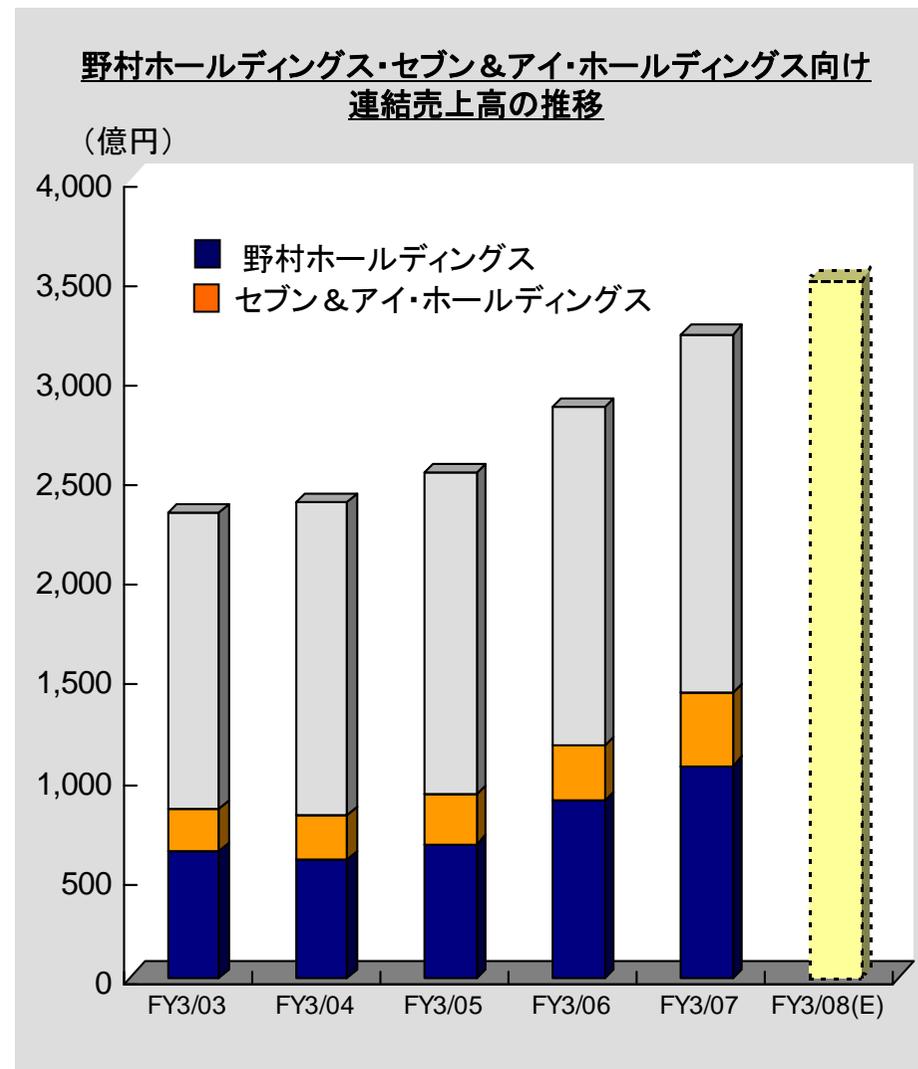
- 預かり資産100兆円、500万口座を中期目標に
- ジョインベスト証券の設立
- インフラ整備
  - コールセンター、ホームトレード強化
- 対面サービス強化
  - 野村SMA、店舗展開

... etc.

セブン&アイ・ホールディングス



- 独自の電子マネー、nanacoの発行計画  
(2007年4月発行、初年度1,000万枚発行目標)
- グループ独自企画商品、共同開発商品
- ネット・スーパー事業の開始
- セブン銀行ATMの設置場所拡大
- 北米店舗網の拡大 ...etc.



(出所)各種報道、各社ホームページよりNRI作成

この資料は、投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。  
Copyright(C) 2007 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

## NRIの強み②：安定した顧客基盤 - 優良顧客とのパートナーシップ

### 各社における最近の取り組み

三菱UFJフィナンシャルグループ

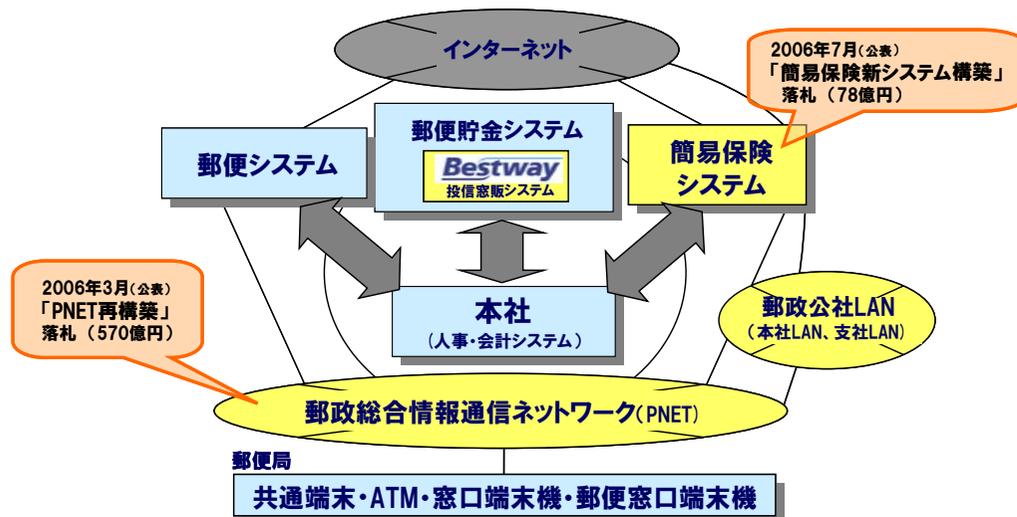


- 総預かり資産営業の強化
- コンシューマーファイナンスビジネスの構築
- インターネットを活用した金融サービスにおけるグループ内での連携
- 銀行・証券連携による、投資銀行業務の強化

... etc.



### 日本郵政グループのシステム構成イメージ



### 日本郵政グループ



- グループ各社が民間企業として自立するための基盤を確立
  - 新商品開発、新ビジネスモデルの開発
  - 事業インフラの整備(業務、システムなど)
  - 郵便局活用によるグループシナジーの創出

... etc.

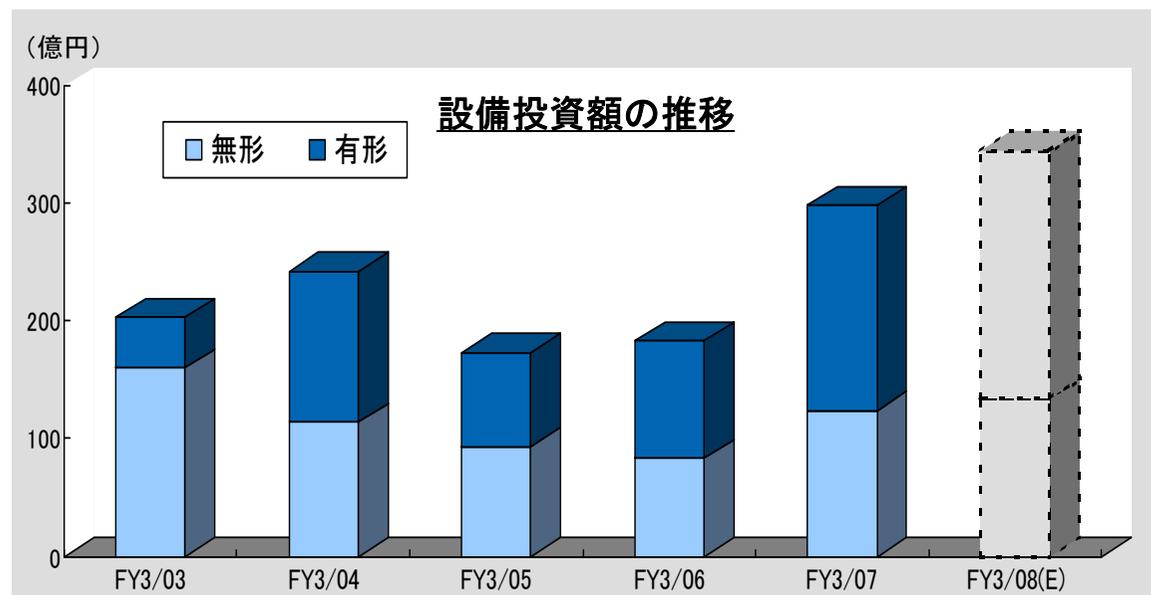
(出所) 2005年8月11日 日刊工業新聞掲載記事よりNRI作成。黄色部分がNRI担当範囲

この資料は、投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

Copyright (C) 2007 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

(出所) 各種報道、各社ホームページよりNRI作成

## NRIの強み③：資産活用型ビジネスモデル



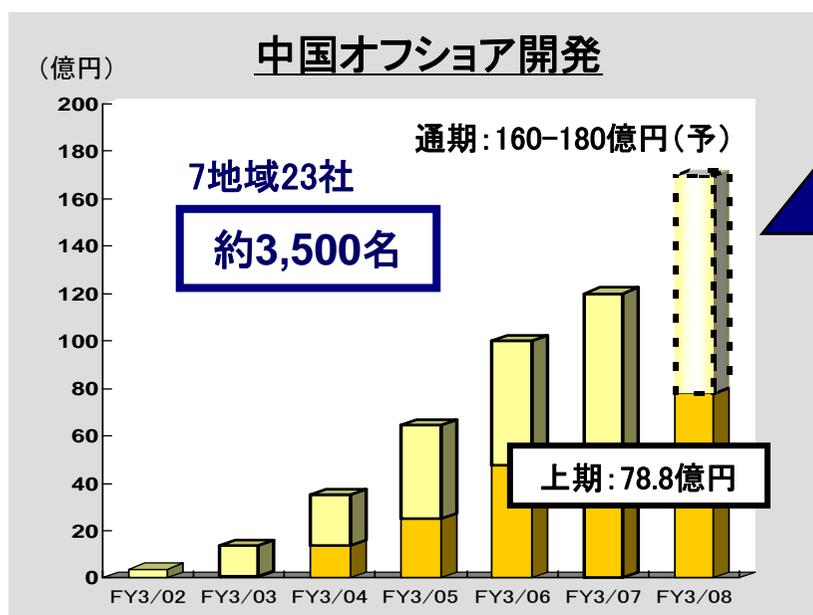
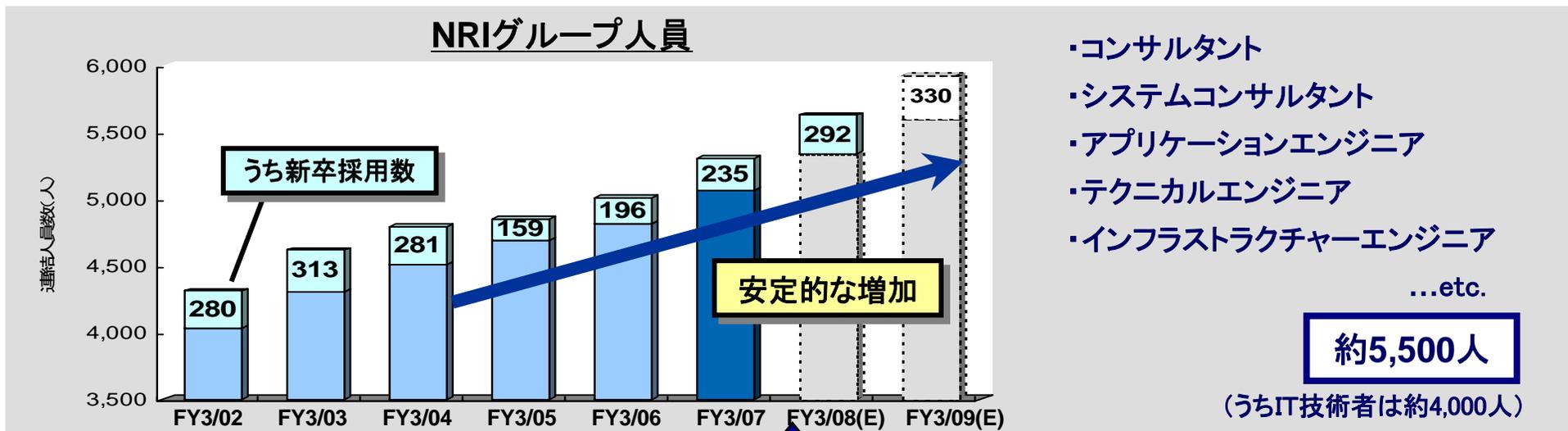
新データセンター外観 (2007年10月竣工)

	概要 (2007年12月時点)	今後
<b>データセンター</b>	日吉、横浜(2箇所)、大阪にデータセンターを所有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Tier4」<sup>注</sup>レベルを実装可能な、最新鋭の新データセンターが完成 (投資総額:約124億円)</li> <li>・新データセンターを軸に、運用アウトソーシング受託、BCPビジネス等を強化</li> </ul>
<b>共同利用型(ASP型)システムサービス、パッケージソフトウェア(ソフトウェア資産)</b>	STAR-IV、T-STAR、I-STARなど金融向けを中心に複数の共同利用型(ASP型)システムサービスを所有	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2008年3月期に、ASP型インターネットトレードシステム「TRADESTAR」が新たに稼動</li> <li>・金融向けは、次世代T-STAR、次世代BESTWAYなど、既存サービスの後継バージョン開発を本格化</li> <li>・金融分野以外でも、ラインナップ拡充のために新たなサービスを検討中</li> </ul>

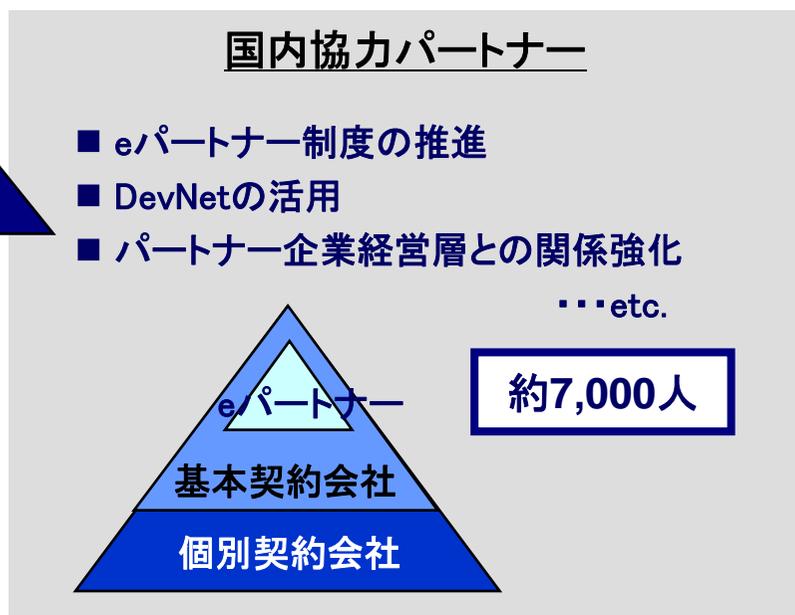
注)主に欧米の金融機関で使用されている自主基準で、データセンターの設備をその冗長構成の多寡で格付けしたもの。Tier4は最高ランクとなる。

NRI この資料は、投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。  
Copyright(C) 2007 Nomura Research Institute, Ltd. All rights reserved.

# NRIの強み④：層の厚い人材 – 社員+国内・中国協力パートナー



**3つのリソース  
を効果的に活用**



---

**1. NRIの事業と位置付け**

**2. 連結業績の推移**

**3. NRIの強み**

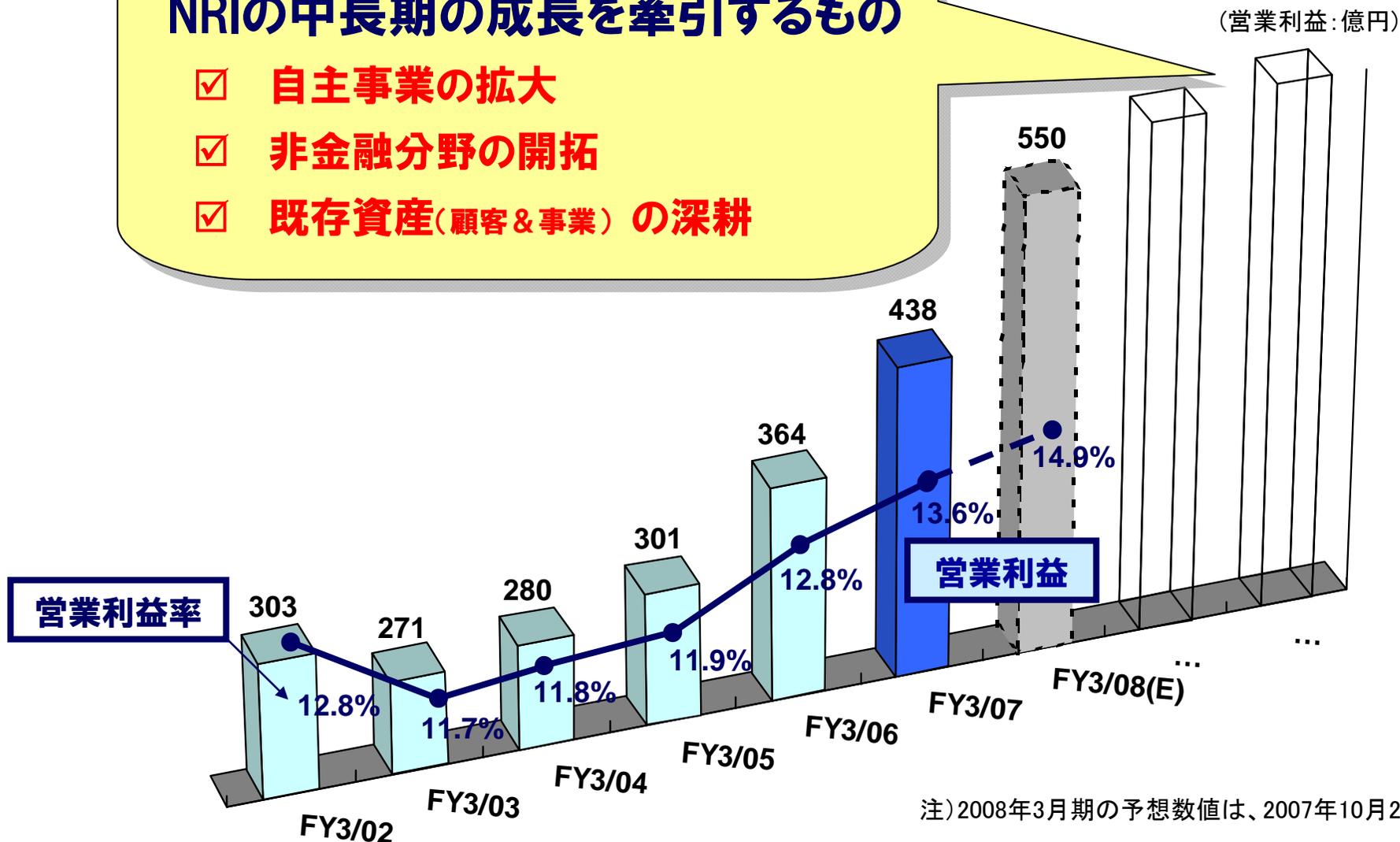
**4. 中長期の成長に向けて**

**5. 参考資料**

# 中長期の成長に向けて

## NRIの中長期の成長を牽引するもの

- ☑ 自主事業の拡大
- ☑ 非金融分野の開拓
- ☑ 既存資産(顧客&事業)の深耕



注) 2008年3月期の予想数値は、2007年10月25日発表

# 中長期の成長に向けて：これまでの成長を支えてきたビジネスモデルをさらに強化

- ✦ 自主事業の拡大
- ✦ 非金融分野の開拓

## さらなる主要顧客の開拓へ

・官公庁、郵政関連、メガバンクなど

主要業界の深い知見を基に  
構造変化を捉える

## さらなる業界の イノベーションへ

・生配販事業  
・ヘルスケア事業  
・通信業界  
・電力業界…

## アジアへ、グローバルへ

・中国金融IT市場への進出  
・コンサルティング事業拡大  
・流通のグローバル対応…

## NRIのビジネスモデル - ナビゲーション & ソリューション -

業界中核企業の  
イノベーションに貢献

業界内に展開し  
顧客基盤を広げる

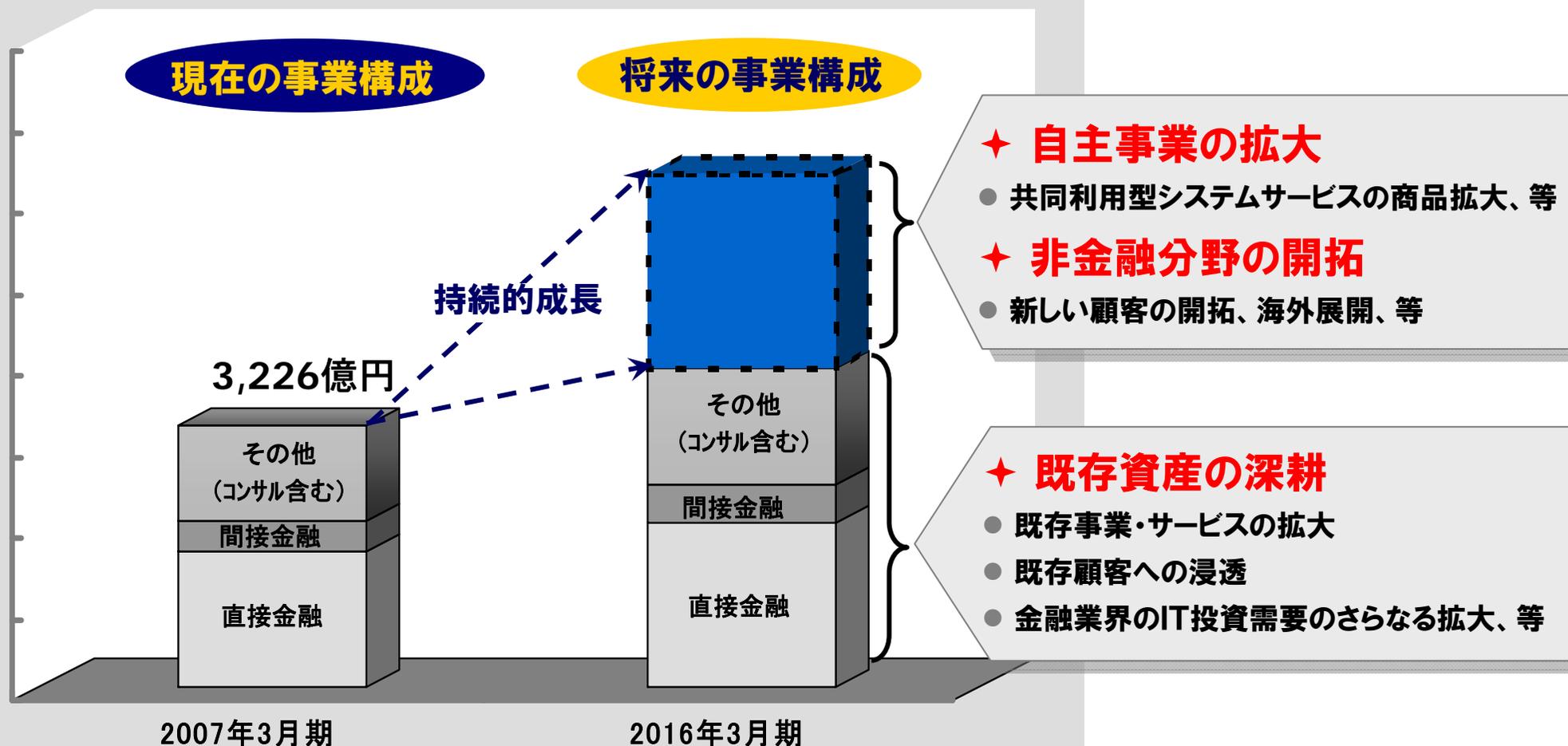
- ✦ 既存資産の深耕

## 既存資産（顧客 & 事業）の深耕へ

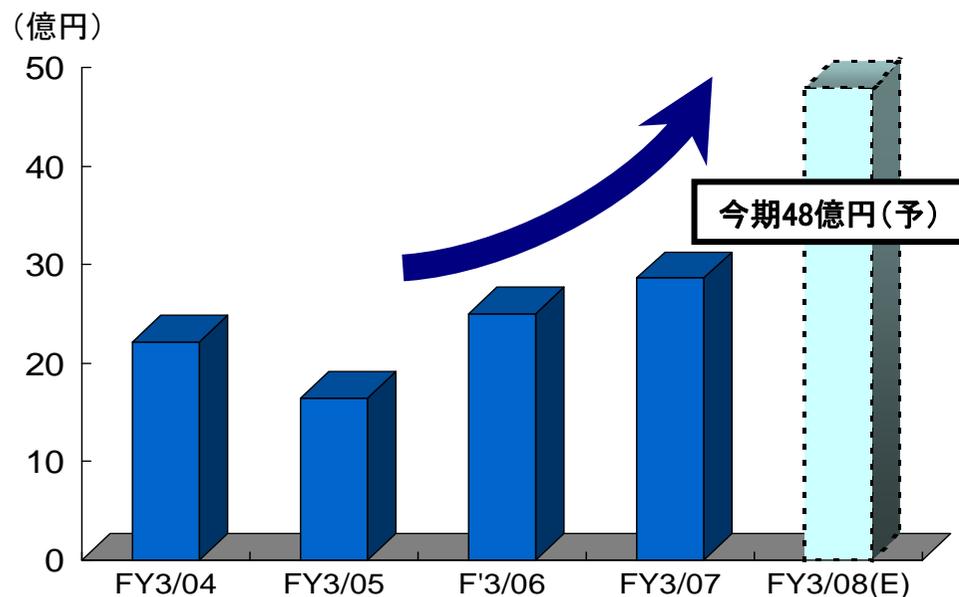
・規制対応（金証法、製販分離…）  
・統制強化（J-SOX、BCP…）  
・新規事業（ネットバンク、カード…）

# 中長期の成長に向けて：持続的成長を目指して‘ビジョン2015’を策定中

連結売上高成長のイメージ

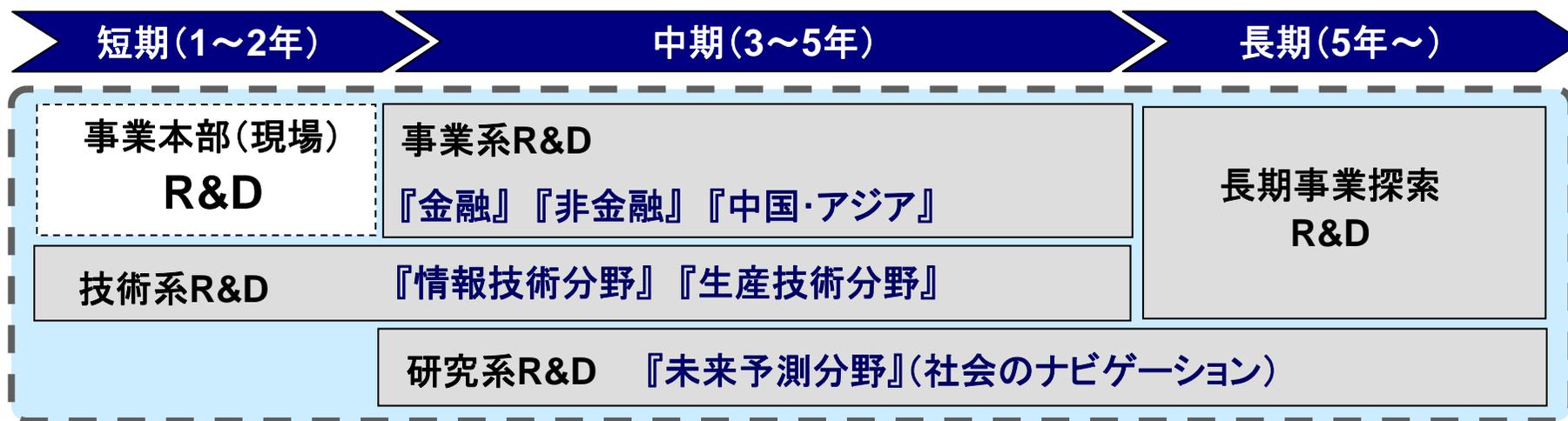


# 中長期の成長に向けて：研究開発への取り組み



## 2008年3月期 R&Dテーマの一部

- 金融・フロント系ソリューション
  - 通信系ソリューション
  - 電力会社向けビジネス
  - カード関連ビジネス
  - 中国向けソリューション
  - 生産管理・テスト支援手法の研究
  - RFID最新基盤技術評価
- ...etc.



# 中長期の成長に向けて：さらなる飛躍を目指し、アジア向けビジネスへの挑戦

## ITソリューションサービス



Target.1  
開発パワーとして

- 中国人技術者のトレーニングを開始
- ◇ 1976年、NRI香港設立

1990年以前

- 中国人研修生受け入れ開始(総勢400名以上)
- 中国の社会・経済動向の研究分析

1998年ー

- 中国人オフショア開発トライアル開始
- 中国オフショア開発の手法等研究
- 香港でERP事業を展開

- 日系企業の対中国投資に対するコンサル開始

2001年ー

- 日系企業の対中国投資に対するコンサル拡大
- 中国政府からのコンサルティングプロジェクト受注
- ◇ 2002年、NRI上海設立

2007年ー

- エンハンス業務の委託拡大
- 『東京オンサイトサポート』開始
- SCMパッケージの展開

- 中国・清華大学との共同研究センター設立

20xx年ー

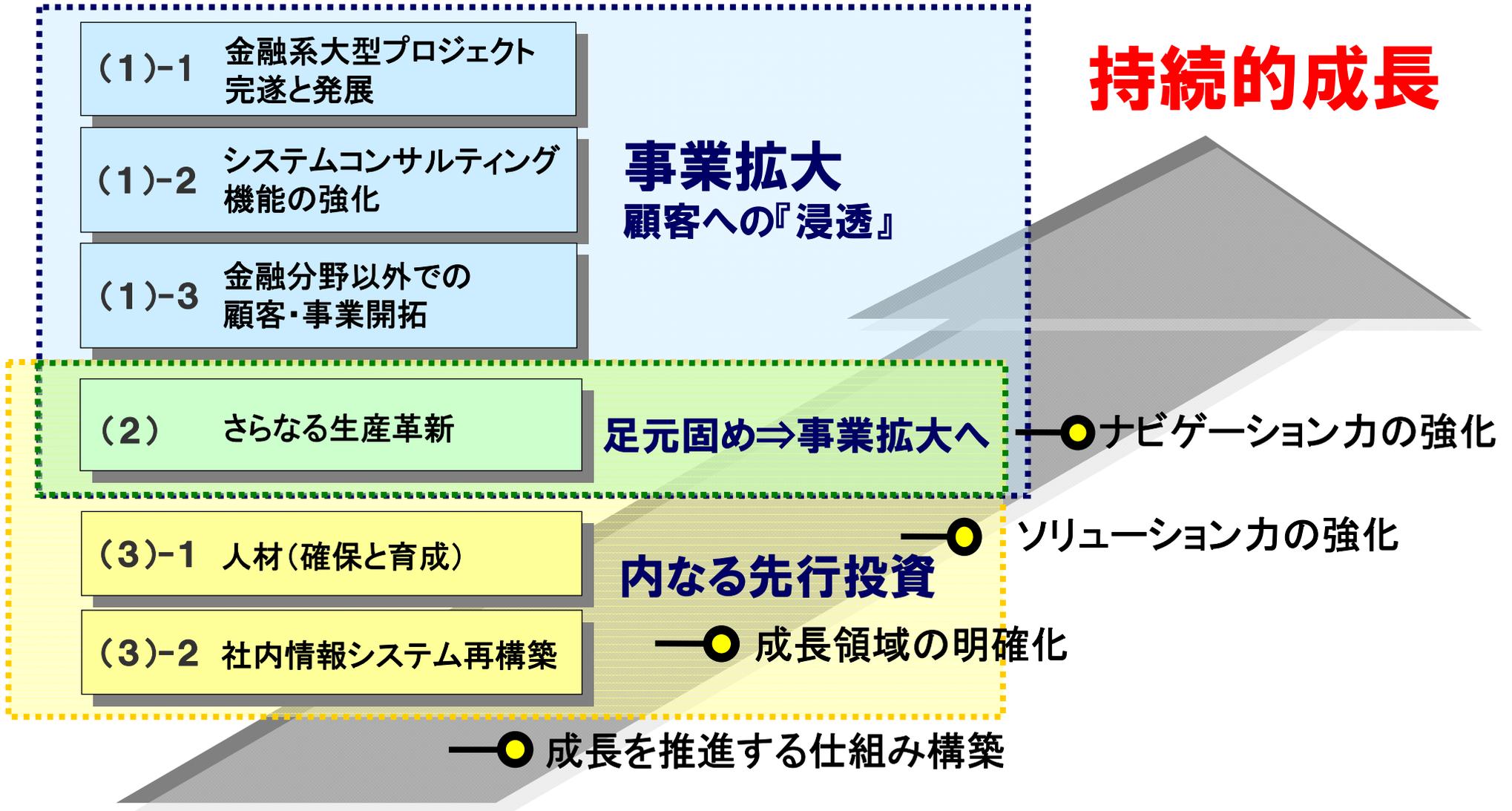
Target. 2  
中国進出日系企業のシステムサポート

Target. 3  
中国政府・現地企業のSI

Target. 2  
現地有力企業のコンサルティング

## コンサルティングサービス

# 中長期の成長に向けて：2008年3月期の重点施策



## 2008年3月期 通期連結業績予想

(億円)

	2007年3月期 (実績)	2008年3月期 (10/25予想)	増減額	増減率
売上高	3,225	3,550	+324	+10.1%
営業利益	438	550	+111	+25.3%
営業利益率	13.6%	15.5%	+1.9P	
経常利益	460	580	+119	+25.8%
当期純利益	270	350	+79	+29.5%
1株当たり当期純利益	¥132.95	¥171.87	+¥38.92	+29.3%

(注)2007年3月期の1株当たり情報は、株式分割(1:5)による影響を遡及した値。

- 
- ・本資料は、業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。
  - ・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。